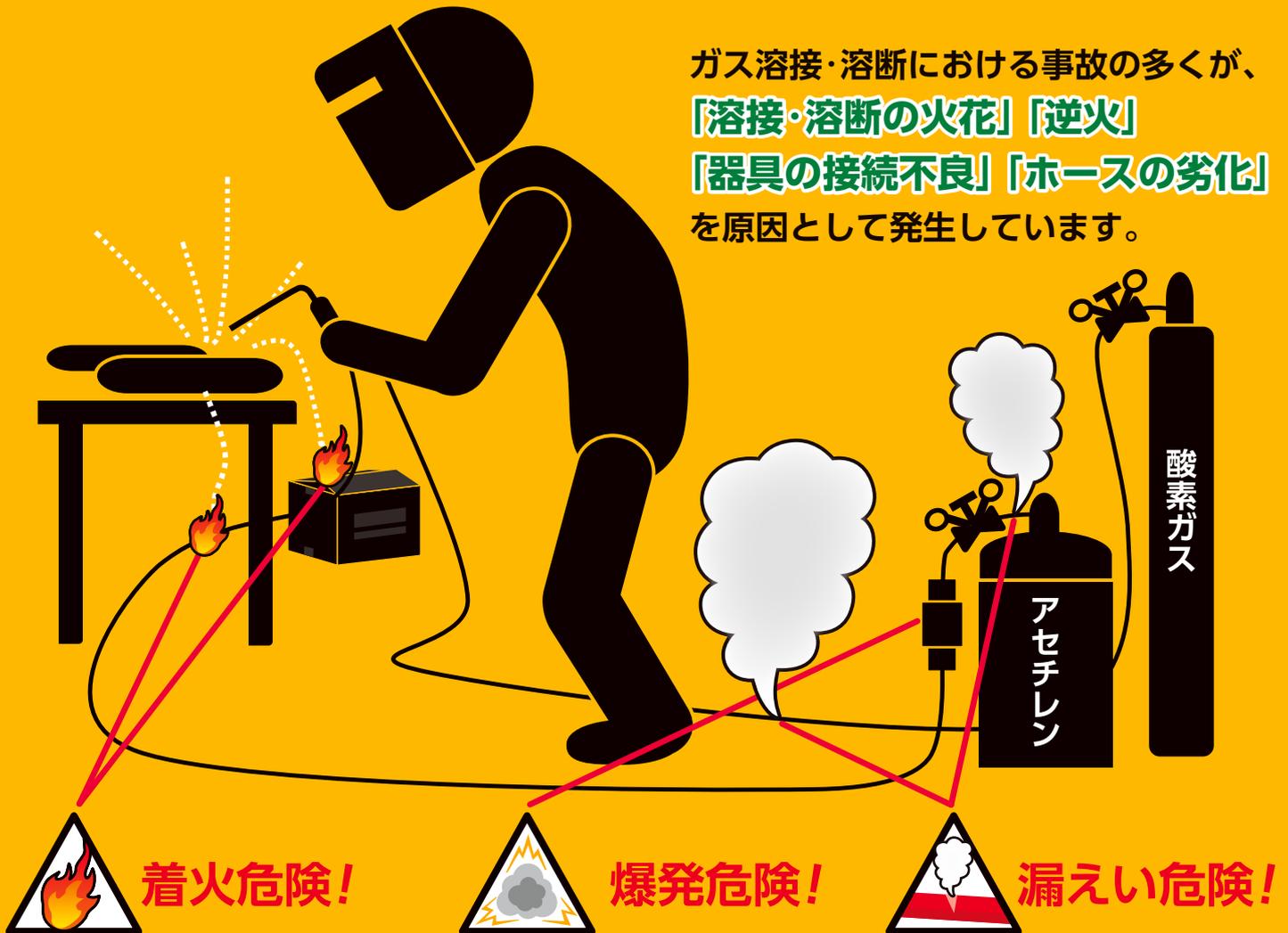


ガス溶接・溶断作業を行う皆様へ

ありませんか？可燃物 してありますか？点検整備

ガス溶接・溶断における事故の多くが、
「溶接・溶断の火花」「逆火」
「器具の接続不良」「ホースの劣化」
を原因として発生しています。



ガス溶接・溶断の火花は非常に高温で、通常難燃性といわれるものでも着火、炎上させることがあります。

また、その火花は予想以上に遠くまで飛散します。

安全器(逆火防止装置)が設置されていないと、逆火が容器まで至り、最悪の場合、容器が爆発します。

また、定期的な点検整備がされていないと、適正に作動しないことがあります。

器具の接続不良やホースの劣化などにより、ガスが漏えいし、火災に至る可能性があります。

使用前の点検を確実に実施してください。

名古屋市内において、溶接・溶断火花による火災は、平成26年から平成30年の5年間で49件発生しています。また、安全器(逆火防止装置)が適正に作動せず、負傷者が発生する事案も発生しています。ガス溶接・溶断作業には危険が伴いますので、作業前には、周囲の確認と器具の点検整備を実施するようお願いします。

名古屋市消防局

ガス溶接・溶断における事故防止チェックポイント



チェック

- ☞ 5 m以内において、火気及び引火性・発火性の物がないこと。



溶接・溶断の火花

- ☞ 使用中のゴムホース及び容器に火花が飛散しないよう適切な位置に配置すること。



火花によりホースが溶融し、発火する可能性があります。

チェック

- ☞ 火花が飛散する場所にある可燃物及び隙間等は、不燃シート等※で養生すること。
※油脂類がしみ込んでいない不燃シート等を使用してください。

火花が隙間から落下し、断熱材などに着火することがあります。

チェック

- ☞ 作業場所の近くに消火用具を配置すること。



作業規模や内容に応じた消火用具を備えましょう。

チェック

- ☞ 安全器（逆火防止装置）が適切に設置されていること。

燃料ガスとして圧縮アセチレンガスを使用する場合は、逆火を防止するための措置を講ずることが高圧ガス保安法により定められています。

チェック

- ☞ 安全器（逆火防止装置）の点検整備が実施されていること。

【乾式安全器の点検整備例】（参考）独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所「労働安全衛生総合研究所技術指針 JNIOSSH-TR-48:2017」

日常検査：外觀検査、気密試験

定期検査：気密、逆流、遮断試験（1回/年）、メーカー定期点検（1回/3年）

チェック

逆火

- ☞ 適正な操作で作業していること。

- 吹管に適したガス圧力で、作業を行うこと。
- 燃料ガスを少量出して点火し、消すときは吹管の酸素バルブを先に閉めること。
- 作業を中断する場合は、吹管の弁のほか、容器の元弁も閉めること。

チェック

器具の接続不良

- ☞ 器具の接合部に異常がないこと。

- 圧力調整器入口側のパッキンに割れ、捻じれ、噛込みがないこと。
- 器具の取り付けは、適合する締め付け工具を使用すること。
- 作業前にホース、火口、調整器の接合部の漏れ点検を行うこと。

チェック

ホースの劣化

- ☞ ホースは、亀裂等の劣化が進行していないものであること。

- ホースを曲げるなどして、ひび割れの有無を目視により確認すること。
- ガス漏れい検知液などを塗布し、ガス漏れがないことを確認すること。



※亀裂が見られるホースの例

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所「労働安全衛生総合研究所技術指針 JNIOSSH-TR-48:2017」より引用

チェック

このリーフレットについて、ご不明な点がありましたら下記の部署までお気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

名古屋市消防局 予防部規制課保安係

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号(名古屋市役所本庁舎1階)

TEL 052-972-3553(保安係) FAX 052-972-4196

開庁時間：8時45分から17時30分 ※土日祝日除く

